

遠藤 守 レポート

E-mail: v1@endomamoru.com ホームページ: <http://endomamoru.com>

お気軽にご意見・ご要望をお寄せください。

新銀行東京「損失」原因と中長期の展望示せ

本年最初の都議会定例会は、2月20日に開会し、26日から3日間にわたり、各党代表質問と一般質問が行われました。

今号では、定例会の最大テーマである「新銀行東京」に関する都議会公明党と石原知事ら執行部との質疑(要旨)に絞って紹介します。

質問 今回の事態(936億円の累積損失)を招いた原因について、詳細・具体的な分析を行い都民に説明すべき。

答弁 当時の経営陣が、融資の際、デフォルトを不問とするなど、質より量を優先した。

○トップ決めた知事責任も追及○

質問 旧経営陣の責任が大であるにしても、経営者の人事をトップダウンで決定した知事の責任も問われなくてはならない。

答弁 発案者として、当然もろもろの責任を感じており、故に渾身の力を振り絞って、再建に当たる。

質問 旧経営陣の経営が乱脈であったというのなら、その詳細を現経営陣に調べさせ、都民の前に明らかにすべき。

答弁 経営悪化の原因とその責任について、徹底して追及する。

○公明提案で内部監視が強化○

質問 わが党は、昨年、累積損失の増大を踏まえ、①目利き機能の強化②都幹部職員の派

遣による監視機能の強化——を訴えてきたが、責任を持って指導・監査を行ってきたのか。

答弁 ご提案を踏まえ、平成19年4月以降、目利き能力の向上など審査体制の充実・強化を働きかけるとともに、職員の派遣を行うことにより、銀行内部からの監視機能が強化され、経営実態がつまびらかになった。

○「再建策」分かりやすく説明を○

質問 複数の選択肢の中で最も批判が集中しやすい追加出資による再建策を提示したのは、なぜか。

答弁 事業清算は、既存融資先への継続支援が難しくなるとともに、追加出資に比べ多額の資金が必要となる。破たん処理は、預金者や既存融資先に甚大な影響を与える。このため、都民への影響の大きさに鑑み、追加出資による再建を選択した。

○「追加出資」現状では認めない○

質問 現状のままでは追加出資を安易に認められない。再建までの手順とスキーム、中長期の展望を都民が納得できる形で提示すべき。

答弁 再建計画は、執行体制では店舗の集約・人員体制の見直しを実施。また事業面では着実に収益が見込める事業に重点化。将来的には、最新の金融のノウハウを有する銀行等の連携も視野に入れる。